

# 【令和二年度 全学校協議会の報告集】

## 第3回学校運営協議会

1 開催日時令和3年2月24日（水）15:00～16:30

2 開催会場本校会議室

3 出席者委員（4名）、校長・教頭・指導教諭・進路指導主事・生徒指導主事・教育センター指導主事等（オブザーバー）

4 議題等（次第順）

○学校評価アンケートの概要報告について

○授業アンケートの個別報告と進路状況について

○令和3年度学校経営計画について

5 協議内容・承認事項等（意見の概要）

<学校評価アンケートの概要報告>

全く自宅学習をしない生徒は各学年100名程度であり、減少傾向である。同時に、授業に対する生徒からの評価は上昇しており、授業だけでなく生徒相談も含め、生徒への接し方の工夫が数値に表れていると考えている。授業研究委員会が先導している授業デザインシートを用いた研究授業などの効果がある様に感じている。

また、社会人基礎力養成の場としての探究ナビの役割を生徒に伝えている。社会に出ていくことはコミュニケーション力を通じた他者との協働と捉え、コミュニケーション力に不安を感じている生徒が多い中で、探究ナビを成長の場として考えている。卒業生にもその様に感じている声がある。

※委員より、学校評価アンケートの地域連携の項目に対する生徒の評価が低いことに対して、地域連携をより進めて欲しいとの要望、安心安全な学校づくりの具体的な訓練内容についての質問があった。これに対して本校としては、双方に対してコロナ禍における今年度の特殊性を説明したうえ、在校生の安否確認をオンラインで行った実績や、生徒の受信環境に対する配慮の重要性などを紹介しながら、新しい形の地域連携を模索していく必要性を感じている旨を説明した。

<授業アンケートの個別報告と進路状況について>

授業アンケートはPDCAサイクルのC（チェック）として用いている。第1回の結果との比較から授業デザインシートを用いた研究授業およびこれを用いた校内での研修の効果と考えている。生徒の取組について、実技科目で上昇がみられる。生徒の意識については大きな変化がなかった。本来ならば生徒の意識の変容につながって欲しかったが難しい。学年別

の経年変化から、生徒の意識は3年生は下降する一方で、1，2年生は上昇している。2年で7%の肯定的数値の上昇。すぐに変更させるのは難しいが、ここ2年は上昇している。従来、2年生は中だるみが見られたが、ここ2年間は改善傾向が見られる。加えて、ほとんど学習しない生徒を減らし、平均の学習時間を増やしたい。1年生は特にこの傾向が見られる。第1回アンケート時の結果はコロナ禍における、夏休みが短縮された効果だと考えたが、今回も維持している。各学年団のキャリアパスポートなどに対する肯定的な取組が原因とも考えられる。今後を注視したい。

現時点での進路状況として、進路未定者がいるものの、大学の合否待ちの生徒も複数いる中での現時点での結果を報告する。就職はコロナ禍の影響で10月からの選考であったが、これを機会に職場見学を推奨した。例年、指定校推薦就職を選ぶ生徒が多い中、今年度は非常に多くの生徒が2社以上を複数回見学した。職場を良く知ってから志望することの重要性を改めて感じている。（今年度は公務員の志望者が少なかった。）進学については指定校推薦、公募推薦、総合推薦、一般とあるが、様々な選抜方法で、関西への中堅大学への志望者を増やしたい。今年度は24名が一般入試に合格しているが、最後の一般入試までがんばる生徒をもう少し伸ばしたいと考えている。

※教育センター指導主事より、授業デザインシートを使った個々の教員の成果を校内で共有し、教員個々で取り組むフェーズから、教員集団（面）で取り組むフェーズへの移行の重要性がコメントされた。

<令和3年度学校経営計画について>

めざす学校像の中で「豊かな感性」を付け加え、優先課題と位置づけている。生徒の手で安心安全な学びの場にしていくという面からも、生徒が多角的な観点を身に付けて学力を活かすという面でも、学校が打算的にならず生徒に社会にでる力をつけていくためにも、豊かな感性が必須と考えている。同時に、今までの経営計画の中には「成果の発信」が抜けていたため、内外への広報活動に力を入れていきたい。広報活動に関する中期目標を今後作成していく予定である。

※以下の議論を経たうで、令和3年度学校経営計画は承認された。

※委員より、「読解力をつける」項目に関して、図書活用の少なさを指摘したうえで、読解力養成についての方策について質問があった。これに対して、図書の充実と並行して、図書館としての校内向けの広報活動の充実をあげた。加えて、国語科のみならず、図書館を使った授業の取組を紹介した。

同じく委員より「安心安全な学校づくり」の中の『居場所』について現状や将来像について質問があった。本校としてはクラス開きの研修を例に、第一にホームルームクラスを中心に行っていること、教室に入りにくい生徒に対しては保健室やゆるりすとルーム、別室登校制度などを用意しており、支援委員会で情報共有したうえで、多面的に生徒を支えている旨を説明した。同時に、『居場所』に関する校内向けの広報活動と過ごしやすさの両立が今後の課題であるとの説明もなされた。

※委員より、オンライン環境について様々な提案や質問がなされた。第一に、次年度から一人一台タブレット環境が整うことを利用した上述の『居場所』をオンラインで設置することについて、本校としては通信環境に対する配慮から、オンラインで設置することをメインの方法とは考えていないことを説明したうえで、生徒の通信環境の調査やフォローを今後も検討していく必要性を述べた。第二に、オンラインで授業参観や情報提供、地域連携の可能性について、本校がスマートスクールサポート校であることより、授業コンテンツの面から実践研究を続けている現状と、今後検討課題として受け止める旨を述べた。

※委員より、広報活動について、中学生にとっては高校進学が大きな関心事であるため、より中高連携を進めて欲しいとの要望があった。本校としては「成果の普及」の広報活動を進めていく中で協力をしていく旨を説明した。また、委員や教育センター指導主事より、令和4年度より観点別評価が必須となるなかで、観点別評価の長所の発信についての要望があった。本校としては、教育センターと連携して実践研究をしてきたことから、本校教員については知識としては十分であること、今後本格的に導入していくうえで、意欲の評価が大きな争点になりうるとの説明と見通しを述べたうえで、教育センターからのさらなる情報提供を要望した。

## 第2回学校運営協議会

1 開催日時令和2年12月8日（火）15:00～16:00

2 開催会場本校会議室

3 出席者委員（3名）、校長・教頭・首席（兼進路指導主事）・指導教諭・教務主任・生徒指導主事・教育センター指導主事等（オブザーバー）

4 議題等（次第順）

○今年度の進路状況（途中経過）について

○授業研究委員会の取組報告（アンケート結果）について

○11月授業研究月間の取組みについて

5 協議内容・承認事項等（意見の概要）

<進路状況（途中経過）について>

就職については求人が減るなかで、多数の生徒が内定を勝ち取っている。不合格であったのは事務職希望者であった。これに対して公務員に関しては合格者がいないのが現状であり、本校生徒は3年次進級以降に行動を起こした者ばかりであり、志望動機が低かった様

に感じる。早い段階から高い志望動機を持って行動を起こす必要があると感じている。進学については、指定校推薦が大部分を占めており、これは保護者も「早く進学先を決めたい」という意識があるからかと考えている。一方で少数ではあるが、公募推薦や一般入試を目標に頑張っている生徒もおり、合格者もいるので、最後までがんばる生徒を増やしていきたいと感じている。

<授業研究委員会の取組報告（アンケート結果）について>

おおむね昨年度より良好な傾向が見られる。予習や復習といった授業に対する生徒の取組のみでなく、教員に対する評価も上昇傾向が見られる。

コロナ禍の影響により、グループ学習を行うことが難しかったが、生徒からの評価は上昇している。対面で授業を受けることを楽しんでいるのではないかと考えられる。

ベネッセの実力テストに関しては、学校としては成績上位者を増やしたいと思っているが、例年、学年があがるにつれて成績上位者が減る傾向が見られる。進路意識が影響している様に感じている。この中で、10期生、9期生ともに第1回から第2回目間は全ての教科で成績が上昇している。これは自宅学習時間についても言えることではあるが、コロナ禍の影響で夏季休業期間が短かったことが影響しているのではないかと感じている。ベネッセの実力テストに組み込んだ学校オリジナル質問では、学習の計画性に対しては否定的な意見が多かった一方で、自分の考えを深めたり、振り返りを行ったりすることには肯定的な回答が目立つ。キャリアパスポートも開始され、本校独自のポートフォリオの指導を行っていることが後押ししたのではないかと考えられる。1学期はコロナ禍の影響で授業の工夫が難しかったが、2学期からデザインシートやタブレットを用いた授業を行ったので、次回の授業アンケートや学校オリジナル質問での結果を楽しみにしている。デザインシートやタブレットについては校内で研修も行っている。授業公開月間における研究授業については次回の運営協議会で報告したい。

タブレットの関しては、大阪府のギガスクール構想の協力校の本校に対してロイロ社からの好意によりロイロノートを使用させてもらっている。教科によって使い勝手の良し悪しはあるが、教員から生徒に対する評価に対する信頼度を向上させる効果もあると考えられる。

※ 保護者からタブレットの使用による弊害も一部指摘される一方で、別の保護者からICT技術を用いることによる効果も注目して欲しい旨の発言あり。これに対して、本校としてはタブレットはあくまで道具であり、学主効果を最大限に引き出すような授業方法の模索と蓄積を続けていく戦略的な利用の方向性が示される。

<最後に>

（保護者より）コロナ禍の影響で一時は学校から生徒が消え、非常に心配したが、現在は生徒の元気な様子がうかがえて本当に安心している。加えて、週に1度学校からメールで行事連絡が来るので、学校の様子が分かってありがたい。学校からの情報提供の有用性を

感じている。

（大学教員より）大学でもコロナ禍の影響で大きく変革を迫られた。逆境のときにさまざまなことを学ぶとも言え、今年はICTの技術を学んだとも言える。この機会に連携し合っ  
て、今までできなかったことができるようになったはず。プラスの面も意識してほしい。

（運営協議会長より）大学生もオンライン授業の方が集中力があがる、という報告もある。教育センター附属高校がこの成果を教育センターや府に発信していくことも可能ではないかと感じている。オンライン授業だけではなく、授業研究委員会の取組はナビゲーションスクールとしての責務を十分に果たしていると考えている。

（学校長より）進路多用高として、生徒につけたい力として3つ上げている。ナビゲーションスクールとしての先進性を、教育センターとの関係も含めて本校の中で考えて発信していきたい。

## 第1回学校運営協議会

1 質疑受付期間令和2年7月31日（火曜）から8月7日（金曜）

2 開催形式書面開催

3 議題等（次第順）

○令和2年度学校経営計画について

○授業研究委員会より本年度の目標と計画について

○昨年度の進路状況について

4 感想・質問事項等（意見の概要）

（1）全体的な感想

私の府教育センター在任時は、教育センターが主導し、学校側がそれにcatch upするというようなイメージでした。しかし、資料を読ませていただくと、現在では先進的なカリキュラム開発を、学校が自立・自律的に進めておられる様子がよく伺えます。その結果、資料にも何度か出てくる言葉ですが、生徒の学習に対するメタ認知能力を高めることで自律的な学習者を一人でも多く育成できることを期待しています。

（2）個別の感想（意見を含め）

・学校経営計画及び学校評価の中で、安全安心な学校づくりの指標である「クラスには自分の居場所がある」の肯定的な回答が常に80%以上あるのはとてもよいことである。

・一方で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答が経年で若干下がり気味なのが気になる。しかし、この年代の子どもが悩みを相談する相手は教員でしょうか。むしろ友だちが主になるのではないのでしょうか。この60%台の数字をどう解釈するかは難しいものがあります。

・授業研究が見事にシステム化されています。その成果が、授業アンケートの結果の「深い学び」の指標にあたる「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定的評価が74.8%という高い割合に現れているのではないのでしょうか。

・スマートスクール事業の協力校となったのは授業改善の大きなチャンスです。スマートスクール事業は教育改革を大きく進める可能性があります。これまでの御校の取組みを一層充実させるチャンスになりそうなので、ご苦労も伴いますが、是非、頑張ってください。そして積極的な成果の発信に努めてください。

### (3) 質問

・学校経営計画及び学校評価で、「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」が経年で10%近く下がっています。この原因をどのように分析されていますか。

・授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている…」の評価だけが4件法で記述されていますが、なぜこだけ肯定的回答の割合でないのでしょうか。